

令和2年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH) 上期生徒アンケート

土木科

熊本県立熊本工業高等学校

①思わない ②どちらかと言えば思わない ③どちらかと言えば思う ④思う

(人)

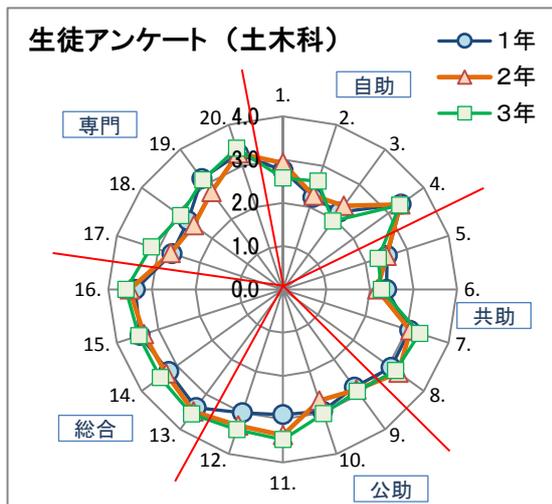
実施日： 令和2年7月10日(金)～20日(月)

	1年					2年					3年				
	①	②	③	④	評価	①	②	③	④	評価	①	②	③	④	評価
自助	1. 非常時の避難場所や安全な避難経路等について、家族で話し合いができています。														
	5	6	9	14	2.8	5	3	15	16	2.9	6	9	14	11	2.6
	2. 自宅がおかれている状況をハザードマップで確認できている。														
	9	10	5	10	2.2	10	8	11	10	2.3	8	7	9	16	2.6
自助	3. 非常時に持ち出す防災グッズの準備や、非常食・生活用品等の備蓄は万全である。														
	11	6	8	9	2.2	11	5	13	10	2.4	12	11	12	5	2.0
	4. 災害時に「自分の身は自分で守る」ことに役立てられる。														
		1	13	20	3.4			17	22	3.3	2		13	25	3.3
共助	5. 地域の行事に積極的に参加する等、日頃から地域とのコミュニケーションを深めている。														
	6	8	8	12	2.5	6	9	12	12	2.5	11	3	17	9	2.3
	6. 近所のお年寄りや体が不自由な方など、支援が必要な人のことを把握している。														
	7	9	7	11	2.4	11	9	10	9	2.2	10	8	15	7	2.3
共助	7. 避難所において、お互いに助け合うためにどのような行動をとればいいのか想像できる。														
	2	4	11	17	3.1	1	1	23	14	3.1	1	1	16	22	3.3
	8. 災害支援や復旧・復興に対して、「地域の人とお互いに協力」しながら対応できる。														
	1	4	13	16	3.1		1	21	17	3.3	3	1	12	24	3.2
公助	9. 災害支援や復旧・復興に対して、公的機関が果たす役割について理解している。														
	4	6	10	14	2.8	3	4	18	14	2.9	4	2	18	16	2.9
	10. 災害支援や復旧・復興に対して、専門業者や公的機関等と協力しながら対応できる。														
	1	9	9	15	3.0	4	4	24	7	2.7	2	2	21	15	3.0
公助	11. 災害に対応できるエンジニアとして活躍していく意識が高まっている。														
	3	5	13	13	2.9		1	16	22	3.4	2		8	30	3.5
	12. 災害支援や復旧・復興に対して、自分が学んでいる知識や技術を役立てることができる。														
	2	5	13	14	3.0		1	18	20	3.3	1		13	26	3.4
総合	13. 授業や実習等に積極的に取り組むことができ、学ぶ意欲が高まっている。														
			14	20	3.4			12	27	3.5	2		6	32	3.6
	14. 課題に対して解決方法を自分で考え、行動する力が高まっている。														
	1	3	10	20	3.2		1	16	22	3.3	1		10	29	3.5
総合	15. 学びを通じて新たな知識・技術を習得することができ、自分のスキルアップにつながっている。														
			11	23	3.4			18	21	3.3	1	2	7	30	3.5
	16. 自分の将来の職業に対する意識が高まっている。														
	1		12	21	3.4		1	11	27	3.5	1		8	31	3.6
専門	17. インフラ復旧に貢献できる力が身に付いている。														
	5	6	11	12	2.7	5	4	19	11	2.7	2	1	17	20	3.2
	18. 公務員、コンサルタント、建設業者の各分野の災害復旧初期における業務内容、活用した物資、技術等を明らかにできる。														
	5	7	9	13	2.7	5	10	14	10	2.5	2	2	21	15	2.9
専門	19. 現状における各々の課題を整理し、解決の道筋を探ることができる。														
	1	3	14	16	3.2	2	6	23	8	2.8	3	17	20		3.1
	20. 震災からの創造的復興に向けて、土木技術者としての知識や技術を身に付けることができる。														
	4	9	21		3.3	1	1	14	23	3.3	2	13	25		3.4

34人

39人

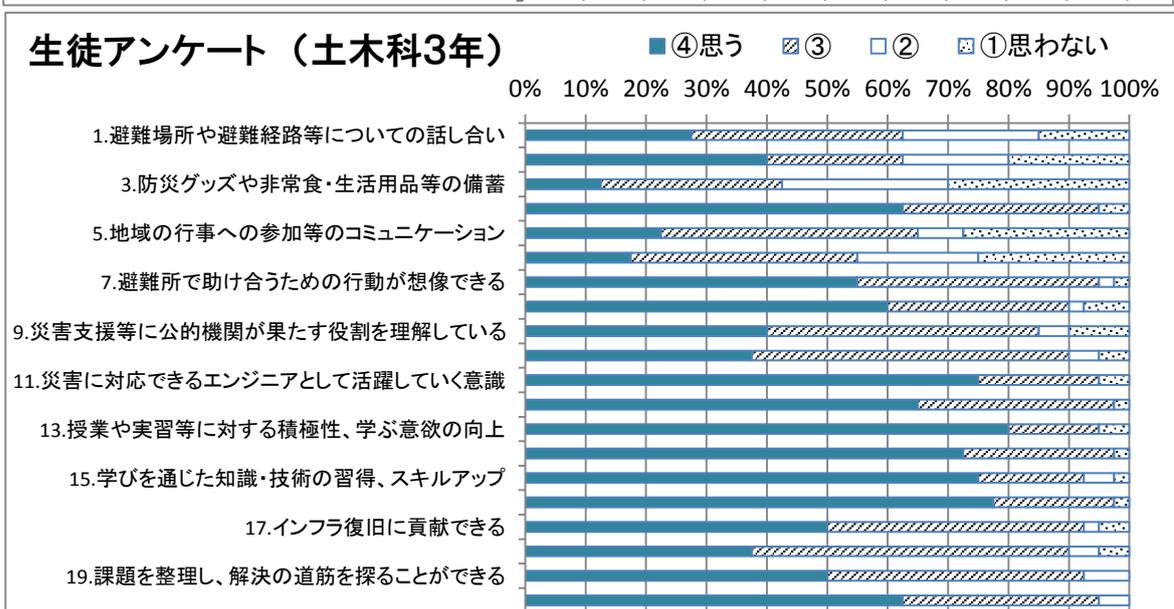
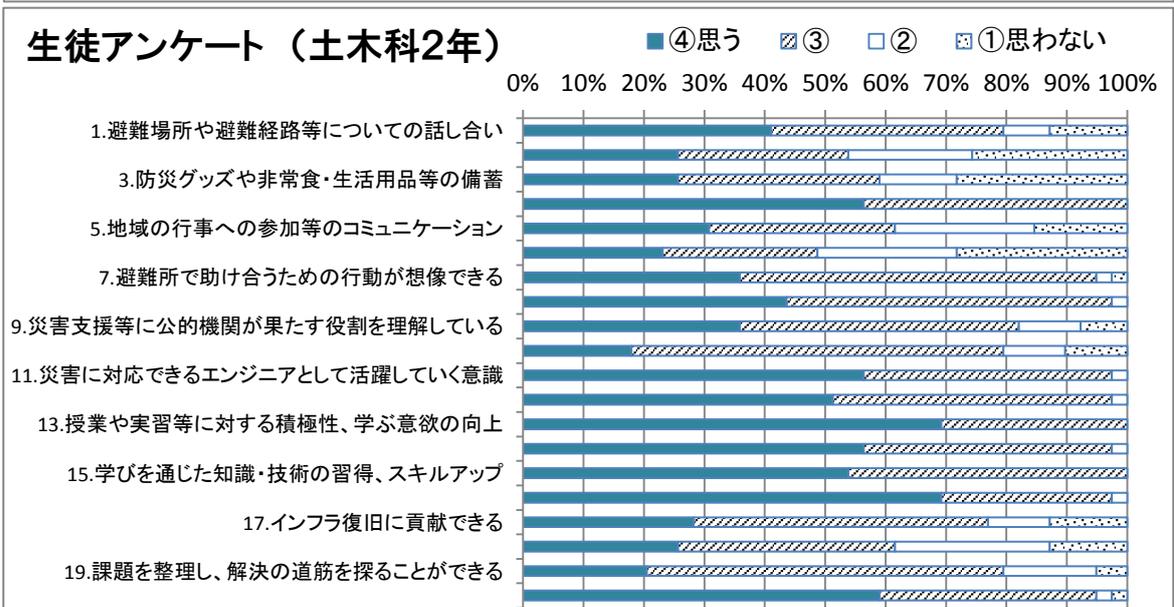
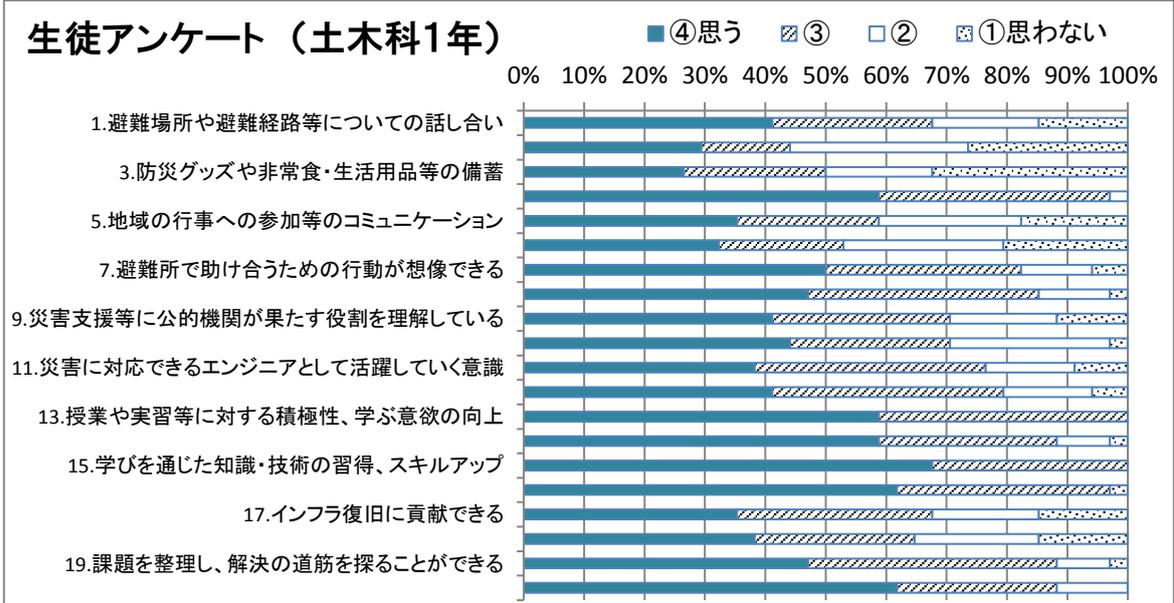
40人



○1年、2年、3年ともそれぞれの取組の成果が見られるが、3年生に関しては、概ね各項目高い値を示している。特に専門、総合においては3.0を超えており、実習・課題研究等の産官学の連携の成果が出ていると思われる。

○自助・共助・公助については、1・2年生で特別講義で道路修復・水道管補修などの実習や被災地への見学会で公助についての取組の成果が3学年全体で3.0近くの値になったと思われる。

○自助・共助については、3年生の課題研究でコース別に取り組んでいるので、今後その成果を1、2年生及び3年生の他のコースの生徒へ研究した内容を広げていけ



令和2年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH) 上期生徒アンケート

建築科

熊本県立熊本工業高等学校

①思わない ②どちらかと言えば思わない ③どちらかと言えば思う ④思う

(人)

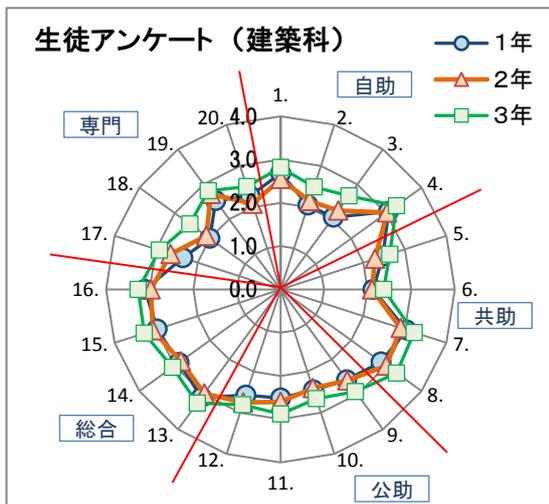
実施日： 令和2年7月10日(金)～20日(月)

	1年					2年					3年					
	①	②	③	④	評価	①	②	③	④	評価	①	②	③	④	評価	
自助	1. 非常時の避難場所や安全な避難経路等について、家族で話し合いができています。	4	8	16	13	2.7	1	7	7	5	2.6	3	6	14	15	2.8
	2. 自宅がおかれている状況をハザードマップで確認できている。	12	12	8	9	2.0	6	4	5	5	2.2	8	6	12	12	2.5
	3. 非常時に持ち出す防災グッズの準備や、非常食・生活用品等の備蓄は万全である。	11	12	10	8	2.1	4	4	9	3	2.3	3	9	15	11	2.7
	4. 災害時に「自分の身は自分で守る」ことに役立てられる。	4	2	14	21	3.1		3	9	8	3.0		3	12	23	3.3
共助	5. 地域の行事に積極的に参加する等、日頃から地域とのコミュニケーションを深めている。	6	11	12	12	2.5	3	4	10	3	2.3	5	8	15	10	2.6
	6. 近所のお年寄りや体が不自由な方など、支援が必要な人のことを把握している。	14	9	8	10	2.1	4	5	9	2	2.1	7	8	15	8	2.4
	7. 避難所において、お互いに助け合うためにどのような行動をとればいいのか想像できる。	3	5	12	21	3.0	2		11	7	2.9		4	13	21	3.2
	8. 災害支援や復旧・復興に対して、「地域の人とお互いに協力」しながら対応できる。	4	6	14	17	2.9	1	1	9	9	3.0		2	17	19	3.3
公助	9. 災害支援や復旧・復興に対して、公的機関が果たす役割について理解している。	5	8	16	12	2.6		4	13	3	2.6	3	7	12	16	2.9
	10. 災害支援や復旧・復興に対して、専門業者や公的機関等と協力しながら対応できる。	7	6	20	8	2.5	1	9	7	3	2.4	1	11	17	9	2.7
	11. 災害に対応できるエンジニアとして活躍していく意識が高まっている。	6	10	14	11	2.5	1	4	13	2	2.6	1	5	19	13	2.9
	12. 災害支援や復旧・復興に対して、自分が学んでいる知識や技術を役立てることができる。	4	11	14	12	2.6		5	11	4	2.8	2	6	18	12	2.8
総合	13. 授業や実習等に積極的に取り組むことができ、学ぶ意欲が高まっている。	3	5	14	19	3.1		3	10	7	3.0		4	13	21	3.3
	14. 課題に対して解決方法を自分で考え、行動する力が高まっている。	3	5	17	16	2.9	1	4	7	8	2.8	1	4	16	17	3.1
	15. 学びを通じて新たな知識・技術を習得することができ、自分のスキルアップにつながっている。	3	1	19	18	3.0		3	7	10	3.1		1	14	23	3.3
	16. 自分の将来の職業に対する意識が高まっている。	4	4	10	23	3.1	1	2	9	8	3.0	3	2	9	24	3.3
専門	17. 耐震建築の構造を理解し、復興に寄与できる力が身に付いている。	8	7	19	7	2.4		6	10	4	2.7		5	22	11	2.9
	18. 震災時の状況把握や災害応急仮設住宅の設営、文化財への新耐震応用等、各分野の業務内容や導入した物資、	9	15	12	5	2.0	2	9	7	2	2.1	1	13	17	7	2.6
	19. 現状における各々の課題を整理し、解決の道筋を探ることができる。	3	14	14	10	2.5		6	11	3	2.7	2	4	23	9	2.8
	20. 震災からの創造的復興に向けて、新耐震構造や伝統技法等の知識や技術を身に付け、建築技術者として提案するこ	6	15	12	8	2.3	2	11	5	2	2.1	4	7	21	6	2.5

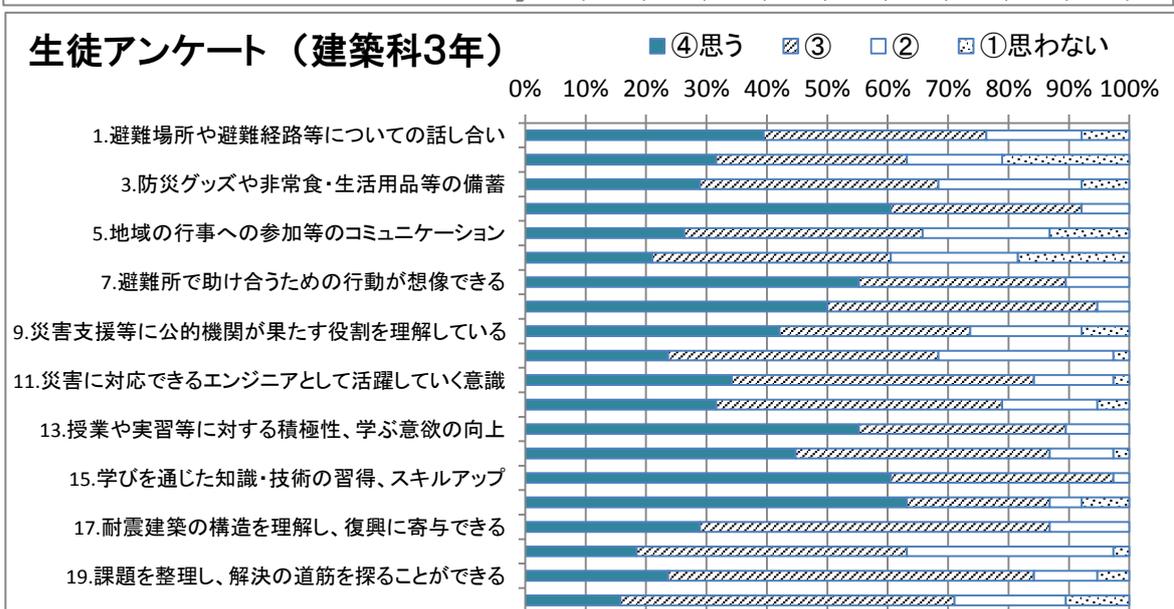
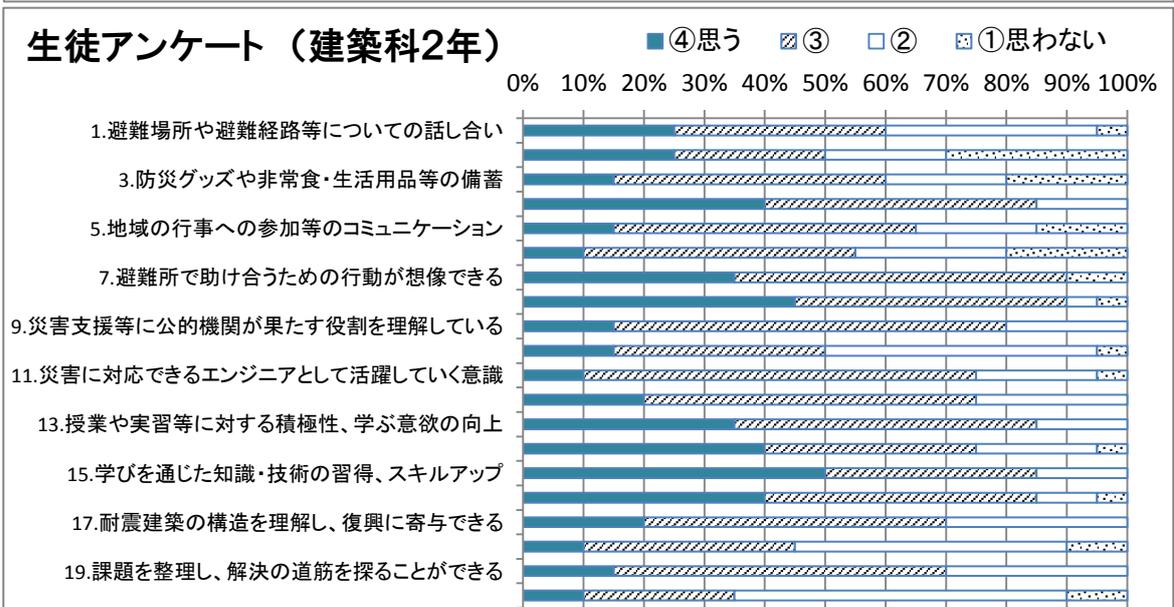
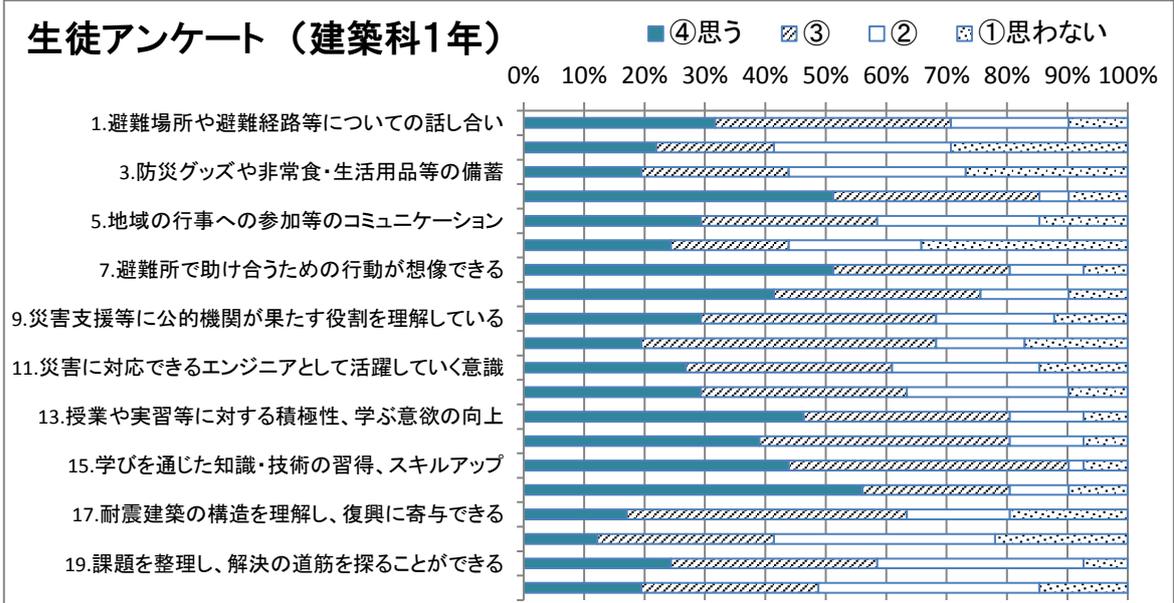
41人

20人

38人



○相対的・総合的な評価として、学年が上がるごとに数値が高くなっている。
 ○「自助」の項目について、特にSPH事業をととした災害の学習が少ない1年生は低評価となっている。
 ○「共助」の項目について、3学年とも質問「5」「6」の評価が低い。地域との関わりやコミュニケーションが希薄化していることが要因として考えられる。
 ○「公助」の項目について、3年生が比較的低い数値となっているのは、専門的な知識を深く学んでいることや公的機関等との協力が難しいことを理解していることが影響していると考えられる。
 ○「総合」、「専門」の項目においては、前述したように、3年生は専門的な知識・技術の習得と、SPH事業の積み重ねにより高評価となっている。



令和2年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH) 上期生徒アンケート

インテリア科

熊本県立熊本工業高等学校

①思わない ②どちらかと言えば思わない ③どちらかと言えば思う ④思う

(人)

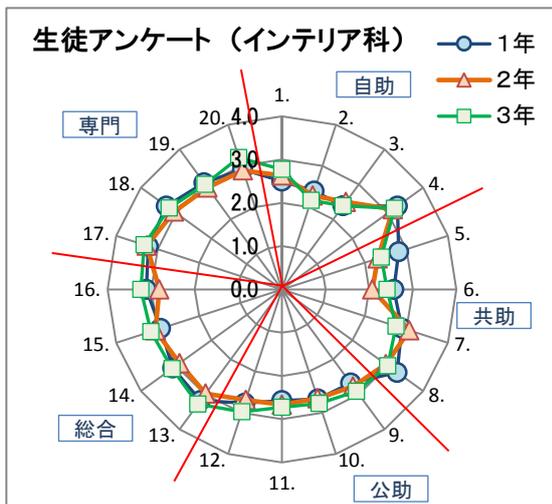
実施日： 令和2年7月10日(金)～20日(月)

	1年					2年					3年				
	①	②	③	④	評価	①	②	③	④	評価	①	②	③	④	評価
自助	1. 非常時の避難場所や安全な避難経路等について、家族で話し合いができています。														
	6	7	11	12	2.5	5	4	8	10	2.6	6	4	14	16	2.8
	2. 自宅がおかれている状況をハザードマップで確認できている。														
	9	4	12	11	2.4	7	5	10	5	2.3	12	7	12	9	2.2
自助	3. 非常時に持ち出す防災グッズの準備や、非常食・生活用品等の備蓄は万全である。														
	7	10	7	12	2.4	4	6	11	6	2.5	11	4	16	9	2.4
	4. 災害時に「自分の身は自分で守る」ことに役立てられる。														
	2	2	11	21	3.3	1	3	11	12	3.1	2	1	16	21	3.2
共助	5. 地域の行事に積極的に参加する等、日頃から地域とのコミュニケーションを深めている。														
	3	6	12	15	2.8	4	8	8	7	2.3	10	5	13	12	2.4
	6. 近所のお年寄りや体が不自由な方など、支援が必要な人のことを把握している。														
	7	9	6	14	2.6	8	8	6	5	2.1	9	6	15	10	2.4
共助	7. 避難所において、お互いに助け合うためにどのような行動をとればいいか想像できる。														
	2	6	15	13	2.9	2	1	12	12	3.1	5	2	20	13	2.8
	8. 災害支援や復旧・復興に対して、「地域の人とお互いに協力」しながら対応できる。														
	4	12	20	3.3	3	4	7	13	2.9	3	4	16	17	3.0	
公助	9. 災害支援や復旧・復興に対して、公的機関が果たす役割について理解している。														
	5	4	16	11	2.7	2	5	13	7	2.8	3	4	18	15	2.9
	10. 災害支援や復旧・復興に対して、専門業者や公的機関等と協力しながら対応できる。														
	5	6	13	12	2.7	5	4	11	7	2.6	3	8	17	12	2.8
公助	11. 災害に対応できるエンジニアとして活躍していく意識が高まっている。														
	6	7	11	12	2.6	3	5	11	8	2.7	5	3	19	13	2.7
	12. 災害支援や復旧・復興に対して、自分が学んでいる知識や技術を役立てることができる。														
	1	9	15	11	2.8	2	4	15	6	2.7	3	2	20	15	3.0
総合	13. 授業や実習等に積極的に取り組むことができ、学ぶ意欲が高まっている。														
	5	12	19	3.2	2	1	15	9	3.0	2	1	13	24	3.3	
	14. 課題に対して解決方法を自分で考え、行動する力が高まっている。														
	6	15	15	3.1	2	1	15	9	2.9	2		21	17	3.1	
総合	15. 学びを通じて新たな知識・技術を習得することができ、自分のスキルアップにつながっている。														
	3	3	17	13	2.9	2	3	10	12	3.1	2	1	16	21	3.2
	16. 自分の将来の職業に対する意識が高まっている。														
	3	5	6	22	3.1	2	4	13	8	2.8	3		16	21	3.2
専門	17. 災害時における居住空間のアメニティやコミュニティについて、新たな知識を習得することができ、災害時に役立てられる。														
	2	6	5	23	3.2		3	10	14	3.3	2		14	24	3.3
	18. 災害時における居住空間のアメニティやコミュニティについて、地域の人とお互いに協力しながら対応できる。														
	5	10	21	3.3	3		12	12	3.1	2		20	18	3.2	
専門	19. 災害時における居住空間のアメニティやコミュニティに対して、専門業者や公的機関等と協力しながら対応できる。														
	7	14	15	3.0	3	1	11	12	2.9	2	3	20	15	3.0	
	20. 災害時における居住空間のアメニティやコミュニティに対して、インテリアの専門性を役立てられる。														
	2	7	10	17	2.9	3	2	12	10	2.9	2	3	14	21	3.2

36人

27人

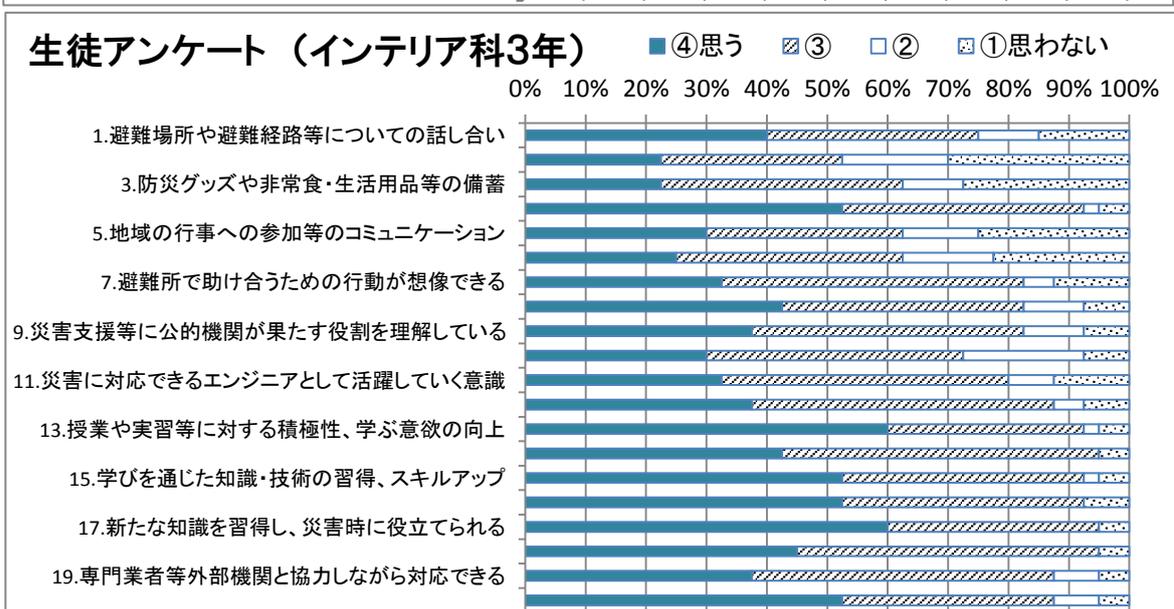
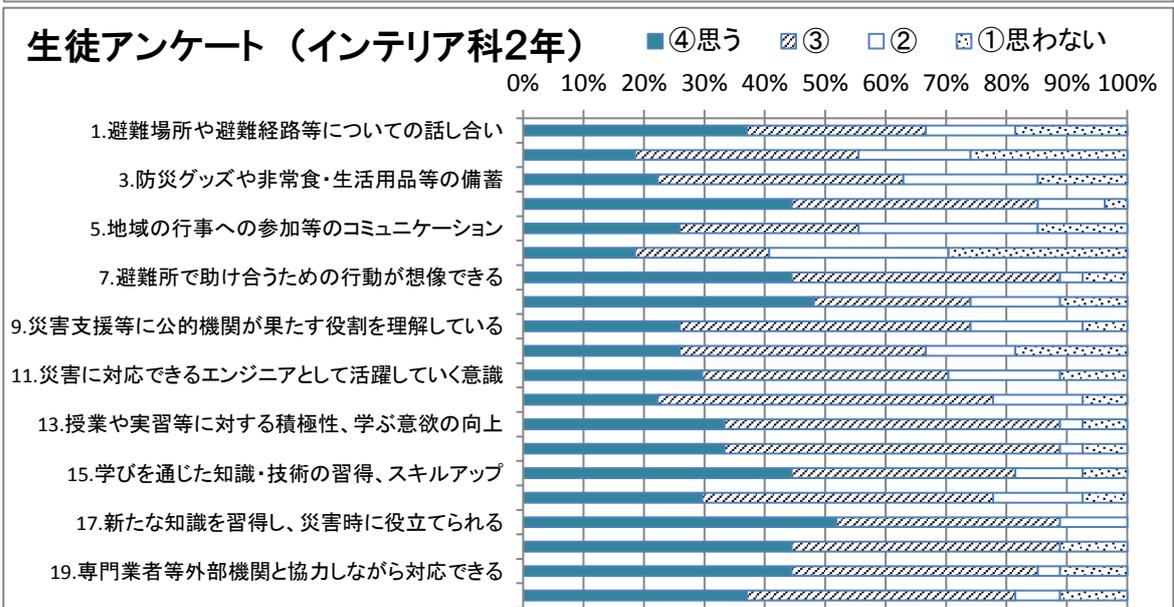
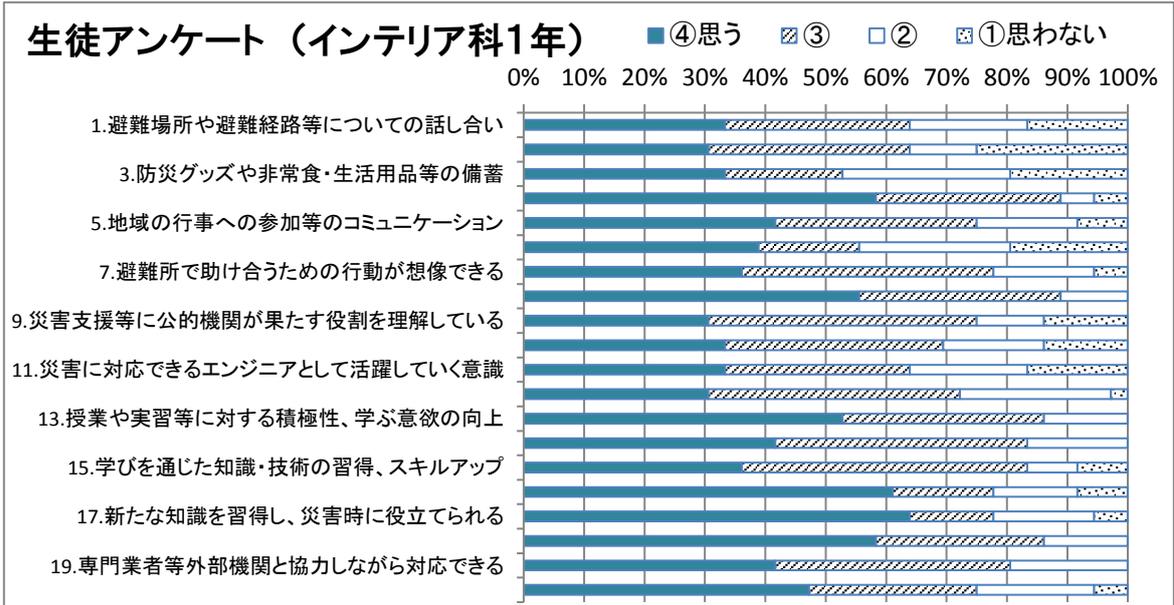
40人



○総じて学年による大きな差がなく、この結果は過去2年間に於いても同様に見られたものであり、学年にできるだけ偏りがないよう取組を進めてきたことによるものと考えたい。

○アンケートの5つの大項目のうち、3つの大項目である「公助」、「総合」、「専門」については、3年生の評価がわずかとはいえいずれも高く、SPHの取組の積み重ねによる効果が現れているものとした。

○しかし、3年生の「自助」の項目については、他の学年よりも評価が低く、当該項目についてはやや生徒任せとしたきらいがあったことは否めない。再度共助や公助のベースとなる自助に関する学習の機会を検討する課題



令和2年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH) 上期生徒アンケート

土木科+建築科+インテリア科の3科

熊本県立熊本工業高等学校

①思わない ②どちらかと言えば思わない ③どちらかと言えば思う ④思う

(人)

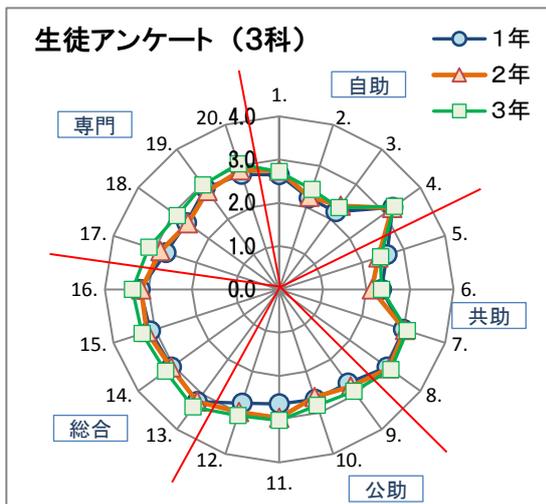
実施日： 令和2年7月10日(金)～20日(月)

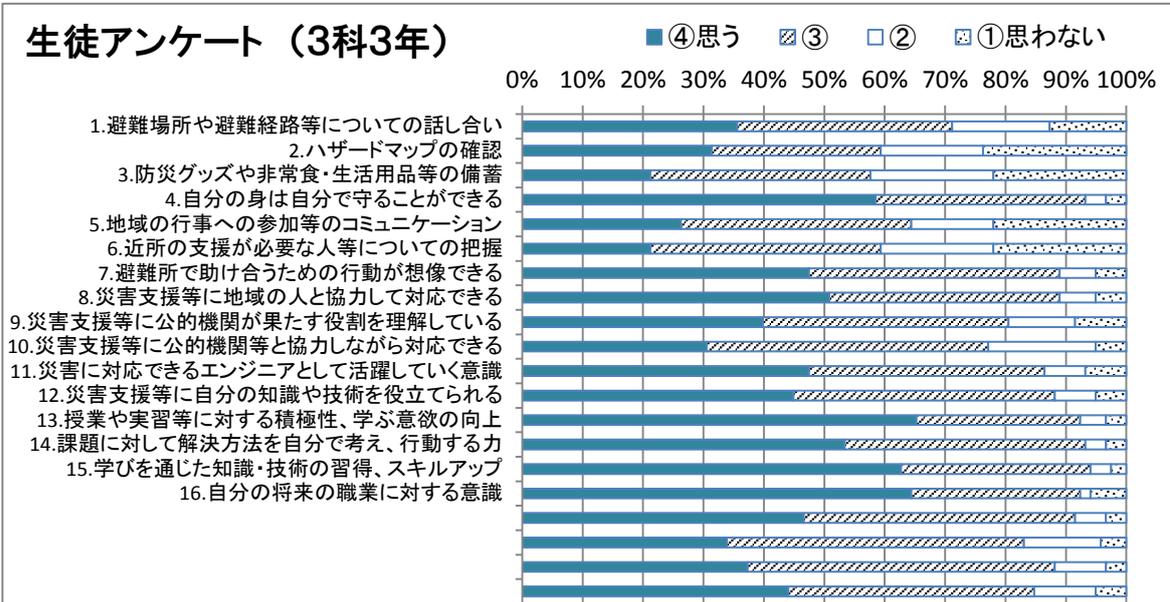
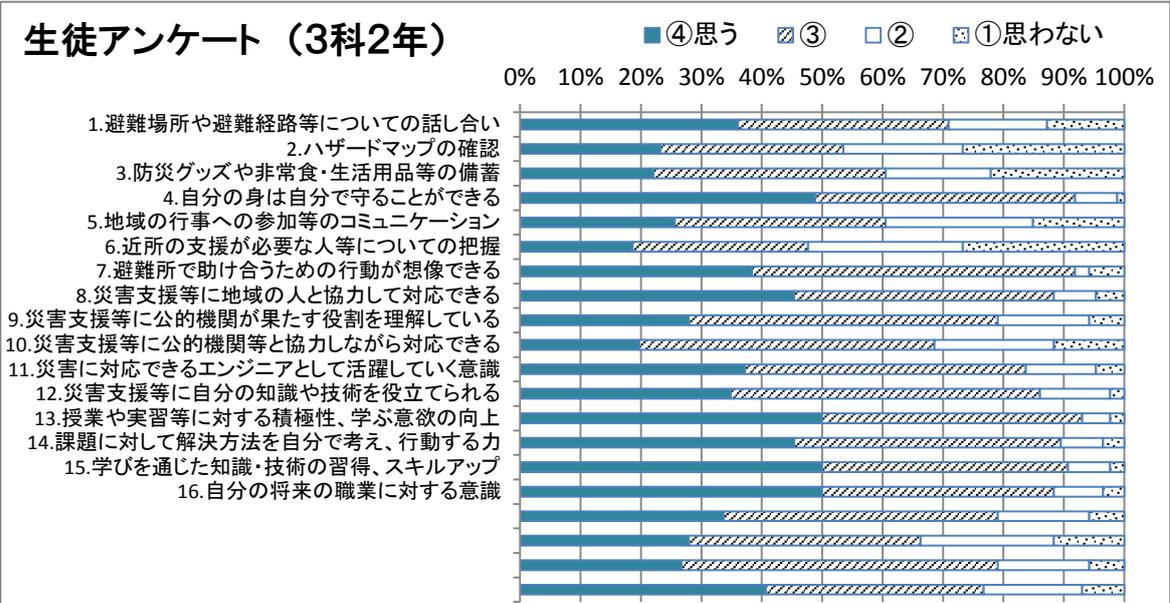
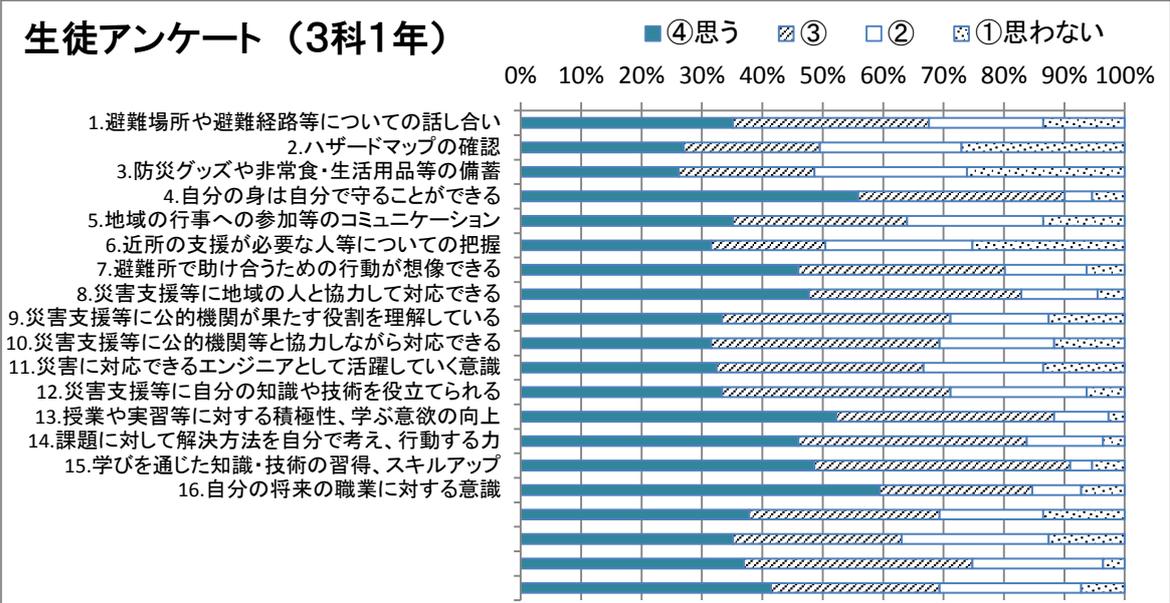
	1年					2年					3年				
	①	②	③	④	評価	①	②	③	④	評価	①	②	③	④	評価
自助	1. 非常時の避難場所や安全な避難経路等について、家族で話し合いができています。														
	15	21	36	39	2.6	11	14	30	31	2.7	15	19	42	42	2.7
	2. 自宅がおかれている状況をハザードマップで確認できている。														
	30	26	25	30	2.2	23	17	26	20	2.3	28	20	33	37	2.4
自助	3. 非常時に持ち出す防災グッズの準備や、非常食・生活用品等の備蓄は万全である。														
	29	28	25	29	2.2	19	15	33	19	2.4	26	24	43	25	2.3
	4. 災害時に「自分の身は自分で守る」ことに役立てられる。														
	6	5	38	62	3.2	1	6	37	42	3.2	4	4	41	69	3.3
共助	5. 地域の行事に積極的に参加する等、日頃から地域とのコミュニケーションを深めている。														
	15	25	32	39	2.6	13	21	30	22	2.4	26	16	45	31	2.4
	6. 近所のお年寄りや体が不自由な方など、支援が必要な人のことを把握している。														
	28	27	21	35	2.3	23	22	25	16	2.1	26	22	45	25	2.3
共助	7. 避難所において、お互いに助け合うためにどのような行動をとればいいのか想像できる。														
	7	15	38	51	3.0	5	2	46	33	3.0	6	7	49	56	3.1
	8. 災害支援や復旧・復興に対して、「地域の人とお互いに協力」しながら対応できる。														
	5	14	39	53	3.1	4	6	37	39	3.1	6	7	45	60	3.2
公助	9. 災害支援や復旧・復興に対して、公的機関が果たす役割について理解している。														
	14	18	42	37	2.7	5	13	44	24	2.8	10	13	48	47	2.9
	10. 災害支援や復旧・復興に対して、専門業者や公的機関等と協力しながら対応できる。														
	13	21	42	35	2.7	10	17	42	17	2.6	6	21	55	36	2.8
公助	11. 災害に対応できるエンジニアとして活躍していく意識が高まっている。														
	15	22	38	36	2.6	4	10	40	32	3.0	8	8	46	56	3.0
	12. 災害支援や復旧・復興に対して、自分が学んでいる知識や技術を役立てることができる。														
	7	25	42	37	2.8	2	10	44	30	3.0	6	8	51	53	3.1
総合	13. 授業や実習等に積極的に取り組むことができ、学ぶ意欲が高まっている。														
	3	10	40	58	3.2	2	4	37	43	3.2	4	5	32	77	3.4
	14. 課題に対して解決方法を自分で考え、行動する力が高まっている。														
	4	14	42	51	3.1	3	6	38	39	3.1	4	4	47	63	3.2
総合	15. 学びを通じて新たな知識・技術を習得することができ、自分のスキルアップにつながっている。														
	6	4	47	54	3.1	2	6	35	43	3.2	3	4	37	74	3.3
	16. 自分の将来の職業に対する意識が高まっている。														
	8	9	28	66	3.2	3	7	33	43	3.2	7	2	33	76	3.4
専門	17. 災害への貢献力														
	15	19	35	42	2.7	5	13	39	29	2.9	4	6	53	55	3.1
	18. 現状認識														
	14	27	31	39	2.6	10	19	33	24	2.6	5	15	58	40	2.9
専門	19. 課題発見														
	4	24	42	41	2.9	5	13	45	23	2.8	4	10	60	44	3.0
専門	20. 解決行動														
	8	26	31	46	2.8	6	14	31	35	2.9	6	12	48	52	3.1

111人

86人

118人





令和2年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH) 上期生徒アンケート

全科

熊本県立熊本工業高等学校

①思わない ②どちらかと言えば思わない ③どちらかと言えば思う ④思う

(人)

実施日： 令和2年7月10日(金)～20日(月)

	1年					2年					3年				
	①	②	③	④	評価	①	②	③	④	評価	①	②	③	④	評価
自助	1. 非常時の避難場所や安全な避難経路等について、家族で話し合いができています。														
	73	57	87	113	2.5	48	55	81	84	2.5	58	57	95	107	2.6
	2. 自宅がおかれている状況をハザードマップで確認できている。														
	112	65	61	92	2.1	85	51	72	60	2.1	95	65	65	92	2.2
自助	3. 非常時に持ち出す防災グッズの準備や、非常食・生活用品等の備蓄は万全である。														
	101	63	63	103	2.3	69	50	85	64	2.3	79	65	88	85	2.3
	4. 災害時に「自分の身は自分で守る」ことに役立てられる。														
	25	26	91	188	3.2	16	21	99	132	3.1	21	20	91	185	3.2
共助	5. 地域の行事に積極的に参加する等、日頃から地域とのコミュニケーションを深めている。														
	66	71	79	114	2.5	60	64	75	69	2.3	70	55	94	98	2.5
	6. 近所のお年寄りや体が不自由な方など、支援が必要な人のことを把握している。														
	116	66	64	84	2.1	78	56	72	62	2.2	94	61	92	70	2.2
共助	7. 避難所において、お互いに助け合うためにどのような行動をとればいいのか想像できる。														
	29	42	94	165	3.0	25	17	108	118	3.0	21	27	109	160	3.1
	8. 災害支援や復旧・復興に対して、「地域の人とお互いに協力」しながら対応できる。														
	23	34	103	170	3.1	21	26	96	125	3.0	19	29	99	170	3.2
公助	9. 災害支援や復旧・復興に対して、公的機関が果たす役割について理解している。														
	48	47	108	127	2.7	35	41	119	73	2.6	45	41	112	119	2.7
	10. 災害支援や復旧・復興に対して、専門業者や公的機関等と協力しながら対応できる。														
	59	58	105	108	2.6	39	60	99	70	2.5	32	50	126	109	2.8
公助	11. 災害に対応できるエンジニアとして活躍していく意識が高まっている。														
	65	56	102	107	2.5	34	51	103	80	2.6	41	37	107	132	2.8
	12. 災害支援や復旧・復興に対して、自分が学んでいる知識や技術を役立てることができる。														
	36	54	113	127	2.8	23	46	111	88	2.8	28	41	110	138	2.9
総合	13. 授業や実習等に積極的に取り組むことができ、学ぶ意欲が高まっている。														
	16	25	100	189	3.2	16	18	99	135	3.1	23	23	96	175	3.2
	14. 課題に対して解決方法を自分で考え、行動する力が高まっている。														
	18	28	102	182	3.2	15	20	111	122	3.1	21	23	106	167	3.1
総合	15. 学びを通じて新たな知識・技術を習得することができ、自分のスキルアップにつながっている。														
	21	19	99	191	3.2	13	18	109	128	3.1	18	21	98	180	3.2
	16. 自分の将来の職業に対する意識が高まっている。														
	37	29	78	186	3.1	21	21	92	134	3.1	21	15	77	204	3.3
専門	17. 災害への貢献力														
	18. 現状認識														
専門	19. 課題発見														
専門	20. 解決行動														

330人

268人

317人

